

香りとさわやかさ お客さんに

# 特製ハーブティー好評



ハーブティーを試飲する影山さん、田中教授、酒井准教授（左から）

## 岐阜薬科大 薬草園研究室

岐阜薬科大学（岐阜市）の薬草園研究室が、ハーブの効能などの知識を生かして、独自に茶葉を調合したハーブティーを作った。22日に同大で行われた卒業式で、記念品として卒業生らにハーブの茶葉が贈られた。研究生らは「さらに飲みやすいハーブティーにしていきたい」と話している。

「この話を聞いた同研究室の田中俊弘教授、酒井英二准教授と、ハーブを長年研究している研究生の影山むつみさんの3人が、「薬科大らしくハーブを使った品物にしよう」と話し合い、昨秋からハーブティー作りに取り組み始めた。3人は、ハーブの組み合わせや配合量を何度も変えて試飲を続け、カモミール、レモングラス、ジャスミン、ジンジャー（しょうが）の4種類を使うことに決めた。カモミールの香りを楽しみ、次に口に含むとレモングラスのさわやかな味が口いっぱい広がる、しばらくすると、しょうがの作用で体が温まってくるという。

名前は、フランス語で「おやすみ」を意味する「Bon ne nuit（ボンニュイ）」とした。同大の薬草園（同市椿洞）を訪れる来場者に試飲してもらったところ、

「リラックスできる」「さわやかだ」などと好評だった。今後、薬草園のイベントなどでも新しいハーブティーを提供していく。

田中教授は「お土産として喜んでもらうとともに、学生たちにも商品づくりを通してチャレンジ精神を学んでもらいたい」と期待している。

# 卒業記念品にも